様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人純心女子学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人文学部	文化コミュニケーション学科 言語文化情報学科	夜・通信	16			16	13	
	地域包括支援学科 福祉・心理学科	夜・通信		4		20	13	
	こども教育保育学科	夜・通信		2		18	13	
		夜・通信						

（備考）
令和６年度より、文化コミュニケーション学科は言語文化情報学科に、地域包括支援学科は福祉・心理学科に名称を変更した。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.n-junshin.ac.jp/univ/wp-content/uploads/2026/06/curriculum_practical_2026.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人　純心女子学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.n-junshin.ac.jp/official/outline/board/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	カトリック長崎大司教区教区長	令7.6.23～ 令11年定時 評議員会終了時	カトリックミッションスクールの使命に基づいた教育に関する意見の聴取
非常勤	前地方独立行政法人理事長 元国立大学長	令7.6.23～ 令11年定時 評議員会終了時	教育研究・学校経営に関する意見の聴取
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人純心女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） シラバス作成のガイドラインを更新し、全教員に配付、周知を行う。 教員は、シラバスに掲載される項目を統一された様式にWEB上で入力する。 新年度のオリエンテーション以降にWEB上において公表する。	
授業計画書の公表方法	https://p1.n-junshin.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/U1/WSL_SyllabusKensaku.aspx
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 学修成果については、学期末試験に関する内規及び「長崎純心大学における成績評定平均値（Grade Point Average）に関する規程」を定め、厳格かつ適正に評価し、単位を付与、履修を認定するための方法等を明示している。 単位認定に必要な要件等（出席等）は、キャンバスガイドに掲載している。 各科目のシラバスにおいて、成績評価の方法と基準を明示している。 なお、キャンパスガイド及びシラバスはＷＥＢ上で公開している。	

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

学修成果を相対的に把握するための指標として、「長崎純心大学における成績評定平均値（Grade Point Average）に関する規程」を定め、運用している。
なお、GPA の算出方法は、下記の算出式に則り、算出する旨をキャンパスガイド及び本学ウェブサイトに掲載し、公表、周知している。
また、GPA が一定基準未満の学生に対し、修学指導を行う体制を整えている。

$$\frac{(4.0\times\text{A+を得た科目の合計単位数}) + (3.0\times\text{A を得た科目の合計単位数}) + (2.0\times\text{B を得た科目の合計単位数}) + (1.0\times\text{C を得た科目の合計単位数})}{\text{履修登録した（不合格だった科目を含む）の総単位数}}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法	『Campus Guide2026』（学生必携） https://www.n-junshin.ac.jp/univ/campus_life/completion/graduate

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

ディプロマ・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを策定し、キャンパスガイド及びウェブサイト上でも公表している。教育課程はカリキュラム・ポリシーに基づいて編成されている。
卒業の判定は、卒業要件単位及び必修科目の単位を修得し、修業年以上在学した者を対象とし、策定された方針及び学則に基づき、教授会において厳格な審査を経て、学長が適正に卒業を認定する。

卒業の認定に関する方針の公表方法	『Campus Guide2026』（学生必携） https://www.n-junshin.ac.jp/univ/campus_life/completion/graduate

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	長崎純心大学
設置者名	学校法人　純心女子学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
収支計算書又は損益計算書	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
財産目録	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
事業報告書	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/
監事による監査報告（書）	https://www.n-junshin.ac.jp/official/disclosure/plan/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：

３．教育活動に係る情報

（1）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/endeavor/self/

（2）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/disclosure/evaluation/

（3）学校教育法施行規則第172条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　人文学部

教育研究上の目的

（公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/purpose/）

（概要）

本学は、学則第２条に定める目的及び使命を全うするため、時代の変化に敵う地球時代のヒューマニズムの構築を目指し、建学の精神たるキリスト教ヒューマニズムに基づく人文教育研究（ヒューマニティーズ）を通して、それぞれに人材の養成を図る以下の学科からなる人文学部を設ける。

言語文化情報学科(2024年度より名称変更)/文化コミュニケーション学科

本学科は、学生一人ひとりが人間という存在と文化の本質の理解を目指し、専門的見地に立って、時代、地域、民族などによって異なる多様な文化を探求すると共に、その成果を伝達し共有する言語コミュニケーション能力・ICT スキルの向上を目指す。同時にその多様な文化の基礎となる人間の普遍性を探求することで、異なる文化間の相互理解に貢献できる人材の養成を目的とする。

福祉・心理学科(2024年度より名称変更)/地域包括支援学科

本学科は、現代社会を取り巻く諸問題に広く関心を持ち、かつ、その問題に立ち向かう勇気と行動力を持ち、生活の主体者である人間を中心に据えて、あふれる共感性、尽きることのない探究心をもった心の豊かな人間を育てる。また、人間の生命と生活を守るため、対人支援の専門職者として深い思考力と高い実践力をもつ人材の養成を目的とする。

こども教育保育学科

本学科は、豊かな人間性をもち、保育、教育、福祉に関わる理論的・実践的学問を真摯に探求し、高度な専門的知識及び技能を兼ね備え、子どもをとりまく多種多様な環境の改善に力を尽くし、子どもと保護者を支援することのできる人材の養成を目的とする。

比較文化学科※平成30年度以降の学生募集停止

本学科は、学生一人ひとりが人間という存在と文化の本質の理解を目指し、専門的見地に立って、時代、地域、民族などによって異なる多様な文化を比較、研究する。同時にその多様な文化の基礎となる人間の普遍性を探求することで、異なる文化間の相互理解に貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/diploma_policy/）

人文学部

1. 建学の精神
   カトリシズムの精神に基づいた全人的な人格を備え、本学の建学の精神である、知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕しようとする態度を身につけている。
2. 知識・技能
   自らに培った倫理と教養及び専門的な知識・技能をグローバルまたローカルな問題解決の場面に応用する力を身につけている。
3. 思考力・判断力・表現力
   明瞭な根拠に基づいて思考し、適正に判断する力を身につけている。また、言語を主たる手段として自らの考えを表現するとともに他者への理解と配慮に立った意思疎通を図る力を身につけている。
4. 主体性・多様性・協働性・共生
   様々な他者と共生・協働するために必要な力を身につけ、且つ生涯にわたって主体的・自主的に学び続ける力を身につけている。

※2023 年度以前入学者対象

人文学部は、カトリシズムの精神に基づき、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育と、各学科における高度な専門教育を行い、所定の単位を修得し、次のような力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 明瞭な根拠に基づいて理論的に思考し、判断する力を有する。
2. 生涯にわたって、主体的に学び続ける力を有する。
3. 自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図ることのできる言語能力を有する。
4. 自らの教養と専門性に基づいて、他者と協調して社会に貢献することのできる力を有する。

言語文化情報学科(2024 年度より名称変更)

【教育目的】

本学科では、柔軟な思考力をもって世界と地域社会の問題と向き合い、文化的背景を異にする他者と協働できる人材の養成を目的とし、次のような能力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 建学の精神

本学の建学の精神「知恵のみちを歩み　人と世界に奉仕する」を身につけている。

1-(1) カトリシズムの精神に基づいて、人間の存在と文化の本質を探究する姿勢を有する。

1-(2) 社会的・文化的背景を異にする人々の尊厳を重んじ、多様な価値観を尊重する豊かな人間性を有する。

1-(3) 目の前にある情報端末を通して世界中の様々な人々と繋がっていること、また、情報端末で制作したものが他者の目に触れることを意識しながら、見えない相手のことを想う心を有する。

2. 知識・技能

自らに培った倫理と教養及び専門的な知識・技能を用いて、課題解決の場面に応用する力を身につけている。

2-(1) 言語や文化、歴史や社会に関する基本的な知識を総合的に修得し、これに関連するさまざまな時代の文献や資料を的確に読解しまとめることができる。

2-(2) 多様な他者の考えや立場を理解し、言語（日本語および英語、中国語、韓国語、スペイン語等）を用いて自らの考えを正確に伝えるための実践的なコミュニケーション能力を有する。

2-(3) コンピューターやインターネットなどの情報に関する実務的なレベルの知識と、オフィスソフトやマルチメディアソフトの高度なスキルを習得し、あらゆる場面でそれらの能力を活用できる。

3. 思考力・判断力・表現力

根拠に基づいて思考・判断し、自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図る力を身につけている。

3-(1) 学修成果を論述・発表することを通して、論理的かつ柔軟に思考し、自己の見解について説得力をもって主張することができる。

3-(2) 世界を通じて長崎を捉え、長崎を通じて世界に目を向けながら、グローバルな視野とローカルな視点に立って多角的に思考し判断することができる。

3-(3) 様々な情報を目的に応じて適切に収集し、整理したデータを分析して、考察した結果をまとめ説明することができる。また、他者に伝えたい事柄について、情報端末を利用しながらマルチメディアコンテンツを制作して表現することができる。

4. 主体性・多様性・協働性・共生

他者と共生し生涯にわたって主体的に学び続ける力を身につけている。

4-(1) 地域社会や国際社会における様々な課題に向き合い、他者と協働してその解決のために貢献することができる。

4-(2) 日本文化と異文化とを相対化しながら、異なる意見や価値観をもつ多様な人々と共に学び、異なる文化間の相互理解に貢献することができる。

4-(3) アジアやヨーロッパ各国と友好関係を築き上げてきた長崎の歴史や文化を継承し、自らも世界の人々との共生・協働によって新たな価値を創造することができる。

4-(4) 生活や実務における課題について、情報端末を活用して他者と積極的にコミュニケーションをとりながら、情報処理能力を発揮し貢献することができる。

文化コミュニケーション学科

本学科は文化の持つ多様な視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって世界と地域社会の問題と向き合い、文化的背景を異にする他者と協働できる人材の養成を目的とし、次のような能力を身につけた学生に学位を授与する。

1. グローバル化する社会の中で論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。
2. 世界の文化の普遍性と多様性を理解するとともに、文化間の相互理解を助け、新しい文化の創造に貢献できる。
3. グローバル化する世界の中で必要とされる、複数言語(英語、ならびに中国語、韓国語, ドイツ語, スペイン語, 手話のいずれか) でコミュニケーションすることができる。
4. コンピュータやインターネットなどの情報に関する実務的レベルの知識と、オフィスソフトやマルチメディアソフトの高度なスキルを習得し、あらゆる場面でそれらの能力を活用できる。

福祉・心理学科(2024年度より名称変更)

【教育目的】

本学科では、地域社会や人間に対する開かれた態度と倫理観をもとに、福祉的および心理学的視点から人々の健康と幸福に貢献できる知識・技能・価値を身につけた人を養成することを目的とする。そのため、次の能力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 建学の精神
   地域社会や人々の多様性と共通性を理解し、人間の尊厳と人権を重んじる倫理観に基づきながら一人の生活者として福祉的および心理学的視点から自他の健康と幸福に貢献することができる。
2. 知識・技能
   生物・心理・社会モデルの３つの側面に関する基本的な知識や技能を有し、多面的な人間理解ができる。

2-(1)　生物（医学）的側面：身体の構造や機能および疾病に関する基本的な知識を有する。
2-(2)　心理的側面：人間の「心と行動」に関する基本的な知識と技能を有する。
2-(3)　社会的側面：「人と環境の相互作用」に関する基本的な知識と技能を有する。

3. 思考力・判断力・表現力
   人間の「心と行動」や社会状況を把握する力、または地域社会や福祉に関する課題の解決に向けた実践的な力を有する。

3-(1)　人間の「心と行動」や社会状況を把握し、他者に伝えることができる。
3-(2)　地域社会や福祉に関する課題の解決に向けた実践的な力を有する。

4. 主体性・多様性・協働性・共生
   円滑な人間関係をもとに人々の福祉や心の健康の保持増進に貢献することができる。

4-(1)　円滑な人間関係を展開する力を有する。
4-(2)　人々の心の健康の保持増進に貢献できる力を有する。
4-(3)　人々の福祉に貢献できる力を有する。

地域包括支援学科

地域包括支援学科は、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育に加え、福祉の専門的支援や人間の「心と行動」に関する課題解決に係る知識・技術・価値を身につけた、次のような学生に学位を授与する。

1. 人間の尊厳や人権と社会正義の原理に従って行動する力を有する。
2. Biopsychosocial(生物(医学)心理社会)モデルに基づいて人間を理解する力を有する。
3. 地域創生に貢献できる力を有するとともに、グローバルな視点から、国際社会に貢献できる力を有する。
4. 生活のしづらさを有する人々をはじめとするすべての人々の福祉や心の健康の保持増進に貢献できる力を有する。

5. 人間の「心と行動」や「人と環境の相互作用」に関する理解をはじめ、地域社会の多様性に対して開かれた態度をもち、かつ、それらの個別性と普遍性の双方を視野に入れた心理学的または社会科学的な理解ができる力を有する。
6. 人間の「心と行動」、地域社会や福祉に関する課題の解決に向けて、科学的な実験や調査などの適切な実践的方法論及び円滑な人間関係等を展開する力を有する。
7. 社会福祉士・公認心理師・介護福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得することのできる力を有する。

こども教育保育学科

【教育目的】
本学科では、教育、保育、児童福祉に係る専門的知識・技能を備え、豊かな人間性をもった人材の養成を目的とする。そのため、卒業に必要な単位を取得し下記の力を身につけたと認められる学生に対し、学位を授与する。

1. 建学の精神
カトリシズムの精神に基づき、こどもの命を理解し愛する豊かな人間性を有している。
2. 知識・技能
教育、保育、児童福祉等に関する確かな知識と技能を有する。
3. 思考力・判断力・表現力
こどもを取り巻く環境、様々な問題や状況に応じ、教育、保育、児童福祉等についての知見に基づく自らの考えを持って、判断し、行動することができる。
4. 主体性・多様性・協働性・共生
こどもの健やかな成長を支え、こどもや保護者に関わる問題を解決するために、自らの考えを適切に表現し、他者と協働しながら社会に貢献できる。

※2023 年度入学者以前対象
本学科では、保育、教育、福祉に係る専門的知識・技能を備え、子どもの成長発達を促す指導・支援と子どもに係る種々の課題解決のために尽力する豊かな人間性をもった人材の養成を目的とする。そのため、基礎科目 32 単位、基幹科目 91 単位、応用科目 8 単位、計 131 単位を取得することで下記の力を身につけたと認められる学生に対し、学位を授与するものとする。

1. 何が善い保育であり、何が善い教育であるのか、理論的に思考し、判断することが十分にできる。
2. 人間と保育、教育、福祉に関する問題意識を生涯にわたって培い、理論的、実践的に自ら学び続けることが十分にできる。
3. 子どもや保護者、職場や地域社会の人々などと実地に交流するなかで自らの考えを適切に表現し、円滑に意思疎通することが十分にできる。
4. 学んだ知識と技能を生かし、子どもと保護者を支援することによって社会に貢献することが十分にできる。

(比較文化学科)(平成 30 年度以降の学生募集停止)
本学科は、比較文化の基本的な知識を身につけるとともに、専門教育の総仕上げとして行う卒業論文の執筆を通して、自己を充分に表現する能力を研鑽した人材の養成を目的として次のような能力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 時代、地域、民族などによって異なる、文化の多様性を理解できる。
2. 文化の多様性の基礎となる人間の普遍性を理解できる。
3. 異なる文化間の相互理解に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(公表方法:https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/curriculum_policy/)

（概要）
人文学部では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために４年間のカリキュラムを「基礎科目」，「基幹科目」，「応用科目」の３つの科目群によって編成します。
「基礎科目」は、人文学部の全学生に共通の科目群であり、思考力、判断力、表現力の基盤となる教養、外国語の運用力、情報処理能力並びに健康の基礎を身に付けるとともに、地域社会の具体的な課題把握と解決のために主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。
「基幹科目」は、各学科が目指す人材養成の目的を達成するために設けられた専門の科目群で、社会における自立のために必要な力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。
「応用科目」は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学生を知的かつ道徳的に理解し、応用する能力を習得します。授業は、人文学部の全学生が執筆する「卒業論文」の執筆につながる少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」［専攻演習Ⅰb］「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」で行います。

言語文化情報学科(2024年度より名称変更)

【教育課程の編成】
言語文化情報学科は、学位授与方針（デイプロマ・ポリシー）を達成するために「英語コミュニケーション専攻」「日本文化専攻」「世界の文化と長崎学専攻」「情報専攻」を設け、４年間のカリキュラムを「基礎科目」「基幹科目」「応用科目」の３つの科目群によって構成する。

【教育内容・方法等】
「基幹科目」は、学科共通科目と４つの学科専攻科目で構成し、言語・文化・情報の専門的知識と技能を高めながら、３年次から始まる卒業研究・卒業論文に取り組むための基盤をつくる。

1. 学科共通科目は、「教養」「文献講読」「学術研究」の３つの分野で構成する。「教養」の分野では、地元である「長崎を知る」ための科目と世の中の時事を知るための科目を配置する。「文献講読」の分野では、文献を読み・まとめる・発表する・議論する能力を向上させるための科目を配置する。
「学術研究」の分野では、１年次に学科の各教員が専門とする様々な研究分野のことを知ることができる科目を配置する。
2. 「英語コミュニケーション専攻」の科目は、「総合英語」「特定の目的のための英語」「アカデミック英語」「異文化理解・英語学・英文学」の４つの分野で構成する。「総合英語」の分野では、英語の４技能を統合し、CEFR B1 レベル相当以上の英語力を習得するための科目を配置する。「特定の目的のための英語」の分野では、旅行、ビジネス、通訳、検定試験など、それぞれの目的に応じた英語力のスキルアップを図るための科目を配置する。「アカデミック英語」の分野では、さまざまなトピックについて情報を適切に取捨選択し、論理的な英語の文章を読み書きする能力を養うための科目を配置する。「異文化理解・英語学・英文学」の分野では、英語圏の文化や思想、文学を通して、英語という言語を多面的に理解する能力を高めるための科目を配置する。
3. 「日本文化専攻」の科目は、「日本古典文学」「日本近現代文学」「日本の言語・文化」の３つの分野で構成する。「日本古典文学」の分野では、上代から江戸期までの原典資料を読解し、それぞれの時代の言語表現について実証的に学ぶための科目を配置する。「日本近現代文学」の分野では、近代・現代の文学作品を読解し、その理論や文学史を学ぶための科目を配置する。「日本の言語・文化」の分野では、日本語の様相を把握し、多様な文化の中で他者と対話する力を伸ばすための科目を配置する。
4. 「世界の文化と長崎学専攻」の科目は、「世界の言語」「世界の文化」「長崎学」の３つの分野で構成する。「世界の言語」の分野では、中国語・韓国語・スペイン語の語学とその文化を学ぶための科目を配置する。「世界の文化」の分野では、日本、アジア、ヨーロッパを中心に世界の文化の多様性や豊かさ、思想、芸術、社会を学ぶための科目を配置する。「長崎学」の分野では、長崎の文化の特質を知り、地域的・歴史的比較の中で「長崎から世界を見る」、「世界から長崎を見る」ことでグローバルな見識を身に付けるための科目を配置する。
5. 「情報専攻」の科目には、「情報処理理論」「ビジネス実務」「マルチメディア演習」「Web デザイン・プログラミング」「AI・データサイエンス」の５つの分野で構成する。「情報処理理論」の分野では、コンピューターのハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、情報サービスの活用や情報セキュリティなどの知識を学ぶための科目を配置する。「ビジネス実務」の分野では、文書作成、表計算、プレゼンテーション、データベース等のオフィスソフトについて実務的レベルのスキルを習得するための科目を配置する。「マルチメディア演習」の分野では、画像処理の知識を学び、それらを活用して雑誌やポスター、動画等の制作ができるようになるための科目を配置する。「Web デザイン・プログラミング」の分野では、Web ページ制作とプログラミングの基本を学び、Web サイト構築、実務処理の自動化、

携帯端末用のアプリの開発等を学ぶための科目を配置する。「AI・データサイエンス」の分野では、AIの知識と活用方法を学ぶための科目と、データ分析に関する科目を配置する。
「応用科目」は、「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」と「卒業論文」で構成する。なお、卒業論文の執筆は全員に課せられるが、詳細は専攻ごとに決定される。

文化コミュニケーション学科

文化コミュニケーション学科は、学位授与方針（ディプロマポリシー）を達成するために、「日本文化専攻」「ヨーロッパ文化専攻」「長崎学専攻」「英語コミュニケーション専攻」「情報コミュニケーション専攻」を設け、4年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」の3つの科目群によって構成します。

【教育内容・方法等】
「基礎科目」は、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育として、幅広い視野と豊かな人間性を培うため、基礎科目として開設された一連の科目群（「導入・開発」「基礎教養」「言語文化・コミュニケーション」「情報・文献」「スポーツ・保健」「現代教養」）より修得すべき単位を定め、主体的に学ぶ力を修得します。授業は講義または演習形式で行う。
「基幹科目」は、学科共通科目及び6つの学科専攻科目で構成され、内容及び方法において連携を深め、学習効果を高めるカリキュラムとなっている。

1. 学科共通科目には、国内外のグローバル化社会の現状と歴史的背景やコミュニケーションの在り方等について幅広い教養が修得できる科目を配置する。
2. 「日本文化専攻」には、日本文化について多方面から学修し、専門的知識を修得できるように、歴史・語学・文学などの科目を系統的に配置する。
3. 「アジア文化専攻」には、アジア文化の多様性と豊かさに着目し、その特質を修得するために地域についての多くの科目を配置するとともに、対象地域にさまざまな方法でアプローチするための科目を配置する。
4. 「ヨーロッパ文化専攻」には、豊かな歴史と思想、芸術、社会を学ぶための科目を体系的に配置するとともに、現地での学習にもつながるように語学科目を充実させ、その文化的特質を体験できる科目を配置する。
5. 「長崎学専攻」には、長崎の文化の特質を日本や世界との地域的・歴史的比較のなかから学べるよう、広く歴史や文化に係わる科目を配置し、広い視野の中で長崎について学べる科目を配置する。
6. 「英語コミュニケーション専攻」には、高度な英語コミュニケーション能力を養成するために、英語の「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を統合した少人数制科目を配置します。さらに、英語コミュニケーションと情報コミュニケーションにおける総合的スキルの修得のための科目や、情報ソフトを利用し英語コミュニケーション能力を向上させるための科目を配置する。
7. 「情報コミュニケーション専攻」には、情報処理の基礎技能を全学生が習得できる科目や、オフィスソフトやマルチメディアソフトの高度なスキルを修得できる科目を配置する。
8. 「応用科目」は、「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」と「卒業論文」で構成されます。なお、卒業論文の執筆は全員に課せられるが、詳細は専攻ごとに決定される。

福祉・心理学科(2024年度より名称変更)

【教育課程の編成】
福祉・心理学科は、学位授与方針（ディプロマポリシー）を達成するために、「ソーシャルワークコース」「心理学・カウンセリングコース」「ケアワークコース」を設け、4年間のカリキュラムを「基礎科目」「基幹科目」「応用科目」の3つの科目群によって構成する。

【教育内容・方法等】
「基幹科目」は以下の1～4の方針をもとに編成・実施をする。授業は講義、演習、実習形式で行う。

1. 学科の全学生を対象として、自他の健康と幸福に貢献する力の基礎となる、地域社会や人々の多様性と共通性を理解する科目、人間の尊厳と人権を重んじる倫理観を育む科目を配置している。
   また、生物・心理・社会モデルは学科の全学生が学ぶ内容として位置付けている。
2. 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士を目指す学生に対して、「人と環境の相互作用」に関する知識と技術を習得する科目群、社会状況や実践を通して得られた情報を基に説得力を持った解決法を提案する力を養う科目群、人々の福祉に貢献できる実践的な力を習得するための科目群を配置している。

3. 公認心理師や心理学の基礎資格である認定心理士を目指す学生に対して、人間の「心と行動」に関する知識と技術を習得する科目群、人間の「心と行動」および社会を把握するための実践的方法論を学ぶ科目群、人々の心の健康の保持増進に貢献できる実践的な力を習得するための科目群を配置している。
4. 第2項、第3項の科目群には学生の興味関心に応じて相互に受講可能な科目を設定しており、社会福祉学と心理学の両方を学ぶことができるように編成している。また、これらの科目群を通して得られる知識と技術は対人援助場面に限らず広く地域社会に役立てることが可能であり、その土台となる円滑な人間関係を展開する力を養う科目群を設けている。

地域包括支援学科

【教育課程の編成】
地域包括支援学科は、学位授与方針（ディプロマポリシー）を達成するために「ソーシャルワークコース」「心理学・カウンセリングコース」「地域包括ケアコース」を設け、４年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、及び「応用科目」の３つの科目群によって構成する。

【教育内容・方法等】
「基礎科目」は、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育として、幅広い視野と豊かな人間性を培うため、基礎科目として開設１された一連の科目群（「導入・開発」「基礎教養」「言語文化・コミュニケーション」「情報・文献」「スポーツ・保健」「現代教養」）より修得すべき単位を定め、主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義または演習形式で行う。
「基幹科目」は、「ソーシャルワークコース」,「心理学・カウンセリングコース」,「地域包括ケアコース」で異なっており、各コースには、専門資格の取得を可能にするための諸科目を配置する。また、学生の力を醸成するため、各コースに「必修科目」を設置し、次の１から５までの科目間の連動性を視野に入れて教育課程を編成する。授業は、講義または演習形式で行う。

1. 社会福祉士・公認心理師・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格取得（国家試験受験資格の取得を含む）に必要な専門科目
2. 分野別のソーシャルワーク系科目や心理学系科目、及び教育系科目、その他の専門科目
3. 医療・福祉・心理・教育分野等における質の高い実践力を習得するために編成された少人数制による実習系科目
4. 具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、質の高い実践力を１年次から段階的に習得するために編成された少人数制による演習系科目
5. 人間の心と行動や地域社会の特徴を科学的に研究する技術や態度を形成するために編成された、実験系科目並びに研究法に関する科目

「応用科目」では、学生自身が、人間の心と行動、地域社会や福祉に関する課題を設定し、適切な実験・調査等によって課題の解決を図り、これを「卒業論文」として報告するまでの過程を支援する少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」を設置している。

こども教育保育学科

【教育課程の編成】
こども教育保育学科は、学位授与方針（ディプロマポリシー）で示された、教育、保育、児童福祉に係る専門的知識・技能を備え、豊かな人間性をもった人材養成を実現するために、４年間のカリキュラムを「基礎科目」「基幹科目」「応用科目」の３つの科目群によって構成する。

【教育内容・方法等】
「基礎科目」は、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育として、幅広い視野と豊かな人間性を培うため、基礎科目として開設された一連の科目群より修得すべき単位を定め、主体的に学ぶ力を習得する。
「基幹科目」は、教育・保育に係る理論的探究力と実践力の両者を培う目的から構造化された、次の７つの領域から編成しており、授業は、それぞれの科目の目的に沿った形で、講義または演習形式で行う。

1. 自己教育力(学ぶ力)を育む科目群
2. 教育･保育･福祉の意義とこどもの基本的理解を学ぶ科目群

3. 教育・保育に関わる専門的知識を学ぶ科目群
4. 教育・保育に関わる専門的技能を学ぶ科目群
5. 教育・保育に関わる指導法を学ぶ科目群
6. 教育・保育に関わる援助技術を学ぶ科目群
7. 教育･保育実践に関する科目群

なお、乳幼児期からの一貫した人間形成に関する広い視野を育成するため、基幹科目のうち、教育・保育の基礎や子どもの発達等を扱う特に重要な科目（「保育原理」「教育の基礎理論」「子どもと宗教」「子ども家庭福祉」「発達と学習の心理学Ⅰ」「総合演習」）は、全学生における卒業要件科目とする。
「応用科目」は、「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」）と、その成果である「卒業論文」によって構成される。また、教育・保育・福祉に係る理論的探究力、実践力を学生自身の主体的な学びから培うことができるように、「卒業論文」として（1）理論研究、（2）製作研究、（3）実技研究の3つのジャンルを設けている。

※2023 年度入学者以前対象
【教育課程の編成】
こども教育保育学科は、学位授与方針（ディプロマポリシー）で示された、教育、保育、児童福祉に係る専門的知識・技能を備え、豊かな人間性をもった人材養成を実現するために、４年間のカリキュラムを「基礎科目」「基幹科目」「応用科目」の３つの科目群によって構成する。

【教育内容・方法等】
「基礎科目」は、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育として、幅広い視野と豊かな人間性を培うため、基礎科目として開設された一連の科目群より修得すべき単位を定め、主体的に学ぶ力を習得する。授業は、講義または演習形式で行う。
「基幹科目」は、教育・保育に係る理論的探究力と実践力の両者を培う目的から構造化された、次の６つの領域から編成しており、授業は、それぞれの科目の目的に沿った形で、講義または演習形式で行う。
1. 教育･保育･福祉の意義とこどもの基本的理解を学ぶ科目群
2. 児童又は人間の心理学的・生理学的理解に関わる科目群
3. 教育・保育の内容と方法の理解に関する科目群
4. 子育て支援の方法と相談・援助技術に関する科目群
5. 基礎技能と創造的表現に関する科目群
6. 保育・教育実習に関する科目群

なお、乳幼児期からの一貫した人間形成に関する広い視野を育成するため、基幹科目のうち、教育・保育の基礎や子どもの発達等を扱う特に重要な科目（「保育原理」「教育の基礎理論」「子どもと宗教」「子ども家庭福祉」「総合演習」）は、全学生における卒業要件科目としている。
「応用科目」は、3,4 年次のゼミである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」）と、その成果である「卒業論文」によって構成される。また、教育・保育・福祉に係る理論的探究力、実践力を学生自身の主体的な学びから培うことができるように、「卒業論文」として（1）理論研究、（2）製作研究、（3）実技研究の3つのジャンルを設けている。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/principle/admission_policy/）

（概要）
長崎純心大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「知恵のみちを歩み　人と世界に奉仕する」を教育研究の指針としています。学力は、豊かな人間性がそなわって知恵となり、人と世界に役立つとき、真の力となるからです。この指針のもと、本学人文学部は、文化コミュニケーション学科、地域包括支援学科、こども教育保育学科によって構成されています。各分野において高い専門性を有し、人と世界に奉仕できる人間を育成することを使命とする長崎純心大学は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、高等学校までに修得すべき基本的言語運用能力を身につけた以下のような入学生の受け入れを目指しています。

言語文化情報学科　※2024 年度 文化コミュニケーション学科から名称変更
1. 私たちがこれまでに築いてきた歴史や文化、文学、芸術、思想などを、広々とした視野のもとにおき、自分の頭で考え自分の言葉で語り、よりよい社会を作ろうと願う人
2. 英語をはじめとする外国語、およびＩＣＴを活用した人間のコミュニケーションに関心を持ち、自分

の視野を拡げ、異なる文化を生きる人々とともに、世界の諸問題に取り組もうと考える人
3. 文化理解とコミュニケーション能力を生かし、卒業後はビジネス、情報通信、教育、文化事業、社会貢献などの分野で、国内外において活躍したいと望む人

福祉・心理学科 ※2024年度 地域包括支援学科から名称変更
1. 人間や社会に関する理解を深めたいという意欲を持ち、大学での学びを通して自らを成長させようとする意識を持つ人
2. 地域社会やそこに暮らす人々の多様性に対する関心を有し、すべての人々の幸福や心の健康の保持増進に貢献するため、自ら主体的に、そして多様な人々とも協働して学ぼうとする態度と学習意欲を持つ人
3. 人間理解や対人援助に係る知識と技術を身につけ、それらの習得した技能を生かして、様々な場で広く地域社会に貢献すること、あるいは、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、公認心理師の国家資格取得を目指し、専門的な支援を通して、地域社会に貢献する志を持つ人

こども教育保育学科
1. 教育、保育、児童福祉に関する問題意識を持ち、理論的、実践的に自ら学び続け、子どもに係わる種々の課題解決のために力を尽くそうとする人
2. 豊かなコミュニケーション力を持ちさらに自らの感性と表現力を高めようとする意欲を持つ人
3. 学んだ知識と技能を生かし、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭などの子どもと関わる仕事に就き、社会に貢献しようとする人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/outline/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	2人	―					2人
人文学部	―	20人	25人	12人	2人	0人	59人
	―	人	人	人	人	人	―

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	93人	93人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/guide/teachers/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
人文学部	280 人	241 人	86.1%	1,120 人	974 人	87.0%	若干人	0 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	280 人	241 人	86.1%	1,120 人	974 人	87.0%	若干人	0 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	236 人 (100%)	17 人 (7%)	202 人 (86%)	17 人 (7%)
合計	236 人 (100%)	17 人 (7%)	202 人 (86%)	17 人 (7%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 十八親和銀行、ANA テレマート、オリックス生命保険、長崎県警察、長崎県公立学校教員、長崎純心大学大学院

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	269 人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

シラバス作成のガイドラインを更新し、全教員に配付、周知を行う。

教員は、シラバスに掲載される項目を統一された様式に WEB 上で入力する。

新年度のオリエンテーション以降に WEB 上において公表する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学修成果を相対的に把握するための指標として、「長崎純心大学における成績評定平均値(Grade Point Average)に関する規程」を定め、運用している。

なお、GPA の算出方法をキャンパスガイド及び本学ウェブサイトに掲載し、公表、周知している。

ディプロマ・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを策定し、キャンパスガイド及びウェブサイト上でも公表している。教育課程はカリキュラム・ポリシーに基づいて編成されている。

卒業判定は、卒業要件単位及び必修科目の単位を修得し、修業年以上在学した者を対象とし、策定された方針及び学則に基づき、教授会において厳格な審査を経て、学長が適正に卒業を認定する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	文化コミュニケーション学科	132 単位	[有]・無	48 単位
	地域包括支援学科	131 単位	[有]・無	48 単位
	言語文化情報学科	124 単位	[有]・無	48 単位
	福祉・心理学科	124 単位 (ケアワークコースは 131 単位)	[有]・無	48 単位
	こども教育保育学科	131 単位 (2024 年度入学者から 124 単位)	[有]・無	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : https://www.n-junshin.ac.jp/univ/campus_life/campus-map/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人文学部	言語文化情報学科	690,000 円	240,000 円	240,000 円	授業料 : 2 年次 710,000 円 3 年次 730,000 円 4 年次 750,000 円
	福祉・心理学科	690,000 円	240,000 円	240,000 円	授業料 : 2 年次 710,000 円 3 年次 730,000 円 4 年次 750,000 円
	こども教育保育学科	710,000 円	240,000 円	240,000 円	授業料 : 2 年次 730,000 円 3 年次 750,000 円 4 年次 770,000 円
	比較文化学科	― 円	― 円	― 円	平成 30 年 4 月 学生募集停止

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

すべての学生が安全で快適な学生生活を送れるようサポートする体制をとっている。

全教員がオフィスアワーの時間を設け、授業の質問・相談に応じている。また、円滑かつ充実した学生生活のためにクラス制を採っており、クラスアドバイザーが学生一人ひとりの相談に親身に応じている。

2025年度に設置したキャンパスライフ支援室には、キャンパスソーシャルワーカーが常駐し、常時学生や保護者からの相談に応じ、支援する体制を整えている。また、特別の配慮を必要とする学生支援室を設置しており、合理的配慮を希望する学生との面談を行い、配慮内容を協議し、合意形成を図ったのちに配慮内容を全教職員に周知している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

キャリア支援課にはインターンシップコーディネーター及び社会教育士、キャリアコンサルタントや産業カウンセラーの資格保持者が常駐し進路選択をサポートしている。就活サポートデスク、キャリアカウンセリングは予約制とし、学生の利便性を考慮し、申し込みはすべてオンラインで完結する。年間を通し、キャリアオリエンテーション、ゼミ出張講座などを複数実施し、学生が主体的に進路を考える機会を設けている。授業として各学年に適したキャリア関連科目を配置、「キャリアデザイン」を全学必修科目とする。教員採用試験対策講座や社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士などの国家試験対策講座を開催し、公務員対策講座は学外教育機関と連携している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

すべての学生が安全で快適な学生生活を送ることができるように相談や支援する組織を設けている。

学生支援センター内に保健室・学生相談室を設置し、また、学生相談室内にこころの相談室・キャンパスライフ支援室を設置している。こころの相談室は公認心理師・臨床心理士資格を有する心理カウンセラーが担当し、キャンパスライフ支援室は社会福祉士資格を有するキャンパスソーシャルワーカーが担当している。健康面以外にも友人関係、家族関係、学業や日常の学生生活で困っていることなどの相談に応じている。また、必要に応じて教職員や外部機関と連携しながら支援する体制を整えている。

ハラスメント防止の取り組みとして、ハラスメント相談窓口を設置し、担当教員に相談できる体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.n-junshin.ac.jp/univ/profile/disclosure/education/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F142310111229
学校名（○○大学 等）	長崎純心大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人純心女子学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		315 人（ 191）人	324 人（ 191）人	324 人（ 198）人
内訳	第Ⅰ区分	84 人	82 人	
	（うち多子世帯）	（ 17 人）	（ 16 人）	
	第Ⅱ区分	36 人	38 人	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ － 人）	
	第Ⅲ区分	37 人	24 人	
	（うち多子世帯）	（ 12 人）	（ － 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	50 人	61 人	
	区分外（多子世帯）	103 人	102 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				人（ ）人
合計（年間）				324 人（ 198 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0　人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0　人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	1　人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0　人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	4　人	人	人
計	5　人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0　人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	6　人
３月以上の停学	0　人
年間計	6　人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0　人
訓告	0　人
年間計	0　人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	11　人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0　人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	38　人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0　人	人	人
計	38　人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。